

## 平成 25 年度日本老年看護学会総会 議事録

日 時：平成 25 年 6 月 6 日（木） 13 時 15 分～14 時 15 分

場 所：大阪国際会議場 10F 1009（学術集会第 2 会場）

議 長：小西美智子

報告者：理事長 太田喜久子

副理事長 堀内 ふき

理 事 泉 キヨ子 大塚真理子 北川 公子 酒井 郁子 正木 治恵

水野 敏子 山本 則子 湯浅美千代

監 事 金川 克子

選挙管理委員長 梶井 文子

記 録：丸山 優（会員） 吉田 妙（事務センター）

### 1. 開会の辞

湯浅理事より、会員数 1,387 名のうち、委任状 593 通、出席者 64 名であり、会則 19 条に則り総会として成立している旨の報告があり、開会が宣言された。

### 2. 議長選出

議長選出にあたり、慣例により小西美智子第 18 回学術集会長が選出された。

### 3. 報告事項

#### 1) 理事会、評議員会報告（総一資料 1）

太田理事長より、前年度総会以降の主な活動内容、および会議開催状況、議事について、以下のとおり報告があった。

##### (1) 主な活動内容

###### ① 役員選挙

評議員選挙ならびに理事・監事選挙がインターネットを用いた方法で実施された。評議員 67 名が選出された。さらに、選出された評議員により理事 13 名、監事 2 名が選出された。

###### ② 学術集会の準備

第 18 回学術集会は日本老年学会（第 28 回日本老年学会総会）との合同企画であり、小西学術集会長のもと 6 月 4 日より開催されている。また、第 19 回学術集会は、百瀬学術集会長のもと、平成 26 年 6 月 28 日、29 日に愛知県産業労働センター（ウィンクあいち）での開催に向けて準備を進めている。第 20 回学術集会は、日本老年学会（第 29 回日本老年学会総会）との合同企画であり、平成 27 年 6 月 12 日～14 日にパシフィコ横浜での開催に向け、正木学術集会長のもと準備を進めている。

###### ③ 会則改正の検討

学会活動のさらなる活性化を図るため、会則全体を見直し、改正案を作成し総会に提案することとした。

###### ④ 研究倫理ガイドラインの決定

編集委員会を中心に作成してきた研究倫理ガイドラインを、理事会において決定した。

#### ⑤ 地域ネットワークの検討

各地域での学会活動の活発化に向けたシステムづくりについて、「地方会（仮）」の名称を「地域ネットワーク」に変更し、理事会で検討のうえ、評議員へのアンケートを実施した。平成 25 年度も引き続き検討を継続する。

#### ⑥ 他学会，協議会等との連携の推進

日本老年学会理事長選挙において、本学会からは理事長候補として太田理事長を推薦した。また、日本老年歯科学会からの本学会会員向けアンケートの依頼を承諾し、アンケートを実施した。

日本看護系学会協議会との連携では、特定行為の能力認証や、災害支援などに関わる情報を得たほか、「科研費助成事業 看護学分科会キーワード等検討会」に参加した。看保連・三保連との連携では診療報酬に関する情報を得て、老年看護技術の情報把握に協力した。

その他、日本骨粗鬆症学会のメディカルスタッフ認定事業、自殺予防総合対策推進コンソーシアム設立準備会、認知症医療介護推進会議、日本学術会議の若手研究者ネットワークに、理事・評議員の協力を得て参画している。また、鈴木みずえ評議員を通して早期認知症学会の後援依頼があり承認した。

#### ⑦ 理事会事務委託に関する検討

理事会の運営を円滑にするため、事務委託の検討を進めている。

#### ⑧ 日本老年看護学会誌の電子化に関する検討

現在、CiNii での論文電子化を実施しているが、他のデータベースからも電子公開の要請があり、また大学では学術リポジトリとして研究者の論文のインターネット上での公開が進められているため、本学会誌掲載論文の許諾申請が出されている。今後、このような公開が促進されることを踏まえ、本学会誌の公開の検討、ならびに学会誌編集に関し、インターネット上での投稿、査読についても検討を進めることとした。

### 2) 総務報告（総一資料 1）

大塚理事より、現在の会員数が 1,387 名である旨の報告があった。また、総務（理事会の運営等）、庶務（会員の入退会に関する会員管理ならびに入会基準検討・名誉会員選出内規検討のための情報収集、理事会の準備・議事録作成等）、会計（学会の予算全般の管理および、平成 24 年度決算）、広報（ホームページの情報更新、学会会報・日本老年看護学会ニュースの作成、メールマガジンの配信等）の活動内容についてそれぞれ報告があった。

### 3) 委員会等報告（総一資料 2）

#### (1) 編集委員会

北川委員長より、第 17 巻 1 号、2 号を発行し、1 号は 8 編、2 号は 5 編の投稿論文を掲載した旨、また特集記事として第 17 回学術集会における講演等を 1, 2 号にわたり掲載した旨、および投稿論文の採択率等について報告があった。

#### (2) 研究・教育活動推進委員会

山本委員長より、平成 24 年 7 月 13 日（金）にワークショップ「老年看護学の研究・教育者のキャリアプランについてみんなで考えよう」を開催した旨、また、平成 25 年 6 月 5 日（水）に学術集会の一部としてワークショップ「厚生労働省科学研究費への挑戦」を開催した旨の報告があった。

### (3) 老年看護政策検討委員会

泉委員長より、①診療報酬・介護報酬化に向けた「老年看護ケア技術」について、根拠となる研究論文を提出願ひ検討した結果、在宅慢性疾患患者への遠隔看護技術（代表：亀井智子理事）を、学会から看保連へ提案することとなった旨、②本委員会主催の講演会「老年看護における診療報酬・介護報酬に向けた戦略」を2013年2月11日に開催した旨、③平成25年度看護系学会等社会保険連合（看保連）社員総会において、会費変更に関する提案が出され、今後学会で検討することとなった旨の報告があった。

### (4) 国際交流委員会

正木委員長より、①日本老年看護学会第17回学術集会で開催した交流集会「高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関する決定プロセスと、選択権をはじめとする倫理上の問題に関する多国籍間での捉え方の相違から学ぶ（第2報）」を開催し、その報告を学会誌第17巻1号に掲載した旨、②第18回学術集会において継続テーマでのワークショップを企画した旨、③今年度開催されるThe 20th World Congress of Gerontology and Geriatrics（以下、IAGG 2013）に、高齢者の災害支援をテーマとした日本・中国・韓国の研究者によるシンポジウム、および本委員会が継続して取り組んできた交流集会の取り組みの報告を演題登録した旨の報告があった。

また、平成25年度活動計画として、①日本老年看護学会英語版リーフレットを発行する、②学術集会における高齢者の胃ろう造設や経管栄養に関するワークショップを開催する、③IAGG 2013において高齢者の災害支援をテーマとしたシンポジウムを実施し他国の参加者と交流する、④韓国をはじめとするアジア諸国（フィリピン、インドネシア、台湾、タイ、中国、香港等）の老年看護学会との連携を強化する（学術集会への参加、視察の実施など）、⑤学会ホームページにおいて国際交流に関する情報提供を活発化させ、さらに、国内外の協力員とのネットワークを活用して老年看護に関する国際交流活動および日本の老年看護の海外への発信を一層推進したい旨の説明があった。

### (5) 研究論文表彰選考委員会

酒井委員長より第6回研究論文表彰について、下記の論文が選考された旨の報告があった。

- ・優秀賞：該当なし
- ・奨励賞：【研究ノート】認知症高齢者と家族介護者が関わり合う際に生じる困難に対する看護介入の開発 ―介入プログラムの作成と実践―  
15巻2号, 36-43, 2011.  
高見美保, 水谷信子

### (6) 生涯学習支援委員会

酒井委員長より、研修全体の枠組みを、基礎編、実践編、応用編に分類し、平成24年度は基礎編の研修モデル事業を行った結果、関東会場（東京医科歯科大学、平成25年3月9日開催）では37名、関西会場（佛教大学、平成25年3月23日開催）では50名の参加者を得た旨の報告があった。

### (7) 災害支援検討委員会

太田委員長より、日本看護系学会協議会と連携し、東日本大震災に関わる支援等の情報収集と発信、ならびに学会員の行う支援について学会として支援していくことを方針とし、平成24年度は、第17回学術集会において交流集会「災害支援を考える；ネットワーク作りの必要性和可能性」を開催し、学会誌第17巻2号に詳細を報告した旨の報告があった。

#### 4) 役員選挙結果報告（総一資料 3）

梶井選挙管理委員長より、評議員選挙、理事・監事選挙ともに初めてインターネットを用いて選挙を行ったが、問題なく実施された旨、および各選挙における投票率（評議員選挙：31.8%、理事・監事選挙：88.1%）について報告があった。

また太田理事長より、選出された理事の互選により、堀内副理事長が次期理事長として選出された旨の報告があり、堀内次期理事長より就任の挨拶があった。また、新体制について以下のとおり紹介がされた。

- ・理事長：堀内ふき
- ・副理事長：正木治恵
- ・総務：北川公子（広報）、山田律子（会計）、湯浅美千代（庶務）
- ・監事：石垣和子、泉キヨ子
- ・編集委員会 委員長：酒井郁子
- ・研究・教育活動推進委員会 委員長：諏訪さゆり
- ・老年看護政策検討委員会 委員長：亀井智子
- ・国際交流委員会 委員長：田高悦子
- ・研究論文表彰選考委員会 委員長：真田弘美
- ・生涯学習支援委員会 委員長：大塚真理子
- ・災害支援検討委員会 委員長：太田喜久子

#### 4. 協議事項

##### 1) 平成 24 年度決算（案）（総一資料 4）

水野会計担当理事より以下のとおり説明があり、これを承認した。

- ①収入の部については、会費収入：12,980,000 円（正会員 1,316 名中 1,235 名）、学会誌等販売費：360,570 円、利子・雑収入：1,807,273 円（第 17 回学術集会からの寄付金、ワークショップ参加費、生涯学習研修参加費、DVD 頒布還付金等を含む）、前年度繰越金：11,757,359 円を含め、合計 27,905,202 円の収入があった。
- ②支出の部については、学会誌作成委託費：3,586,590 円（17 巻 1, 2 号）、その他編集委員会費：805,114 円、理事会費：478,260 円、国際交流委員会：284,520 円、生涯学習支援委員会：347,146 円、選挙管理委員会費：702,564 円、学会事務委託費（基本事務費、HP 維持・更新費）：1,629,600 円、他会計繰入支出（特別会計）：5,000,000 円を含め、合計 15,018,487 円を支出し、次年度への繰越金を 12,886,715 円とした。
- ③学会積立金特別会計については、受取利子：2,656 円、平成 24 年度一般会計からの繰入（活動積立金・その他）：5,000,000 円、前年度繰越金：11,034,162 円を含め、次年度への繰越金を 16,036,818 円とした。

##### 2) 平成 24 年度決算監査報告（総一資料 4）

金川監事より、小西監事とともに平成 25 年 5 月 11 日に、通帳・領収書・残高証明書等を確認した結果、平成 24 年度の決算書が適正かつ正式であった旨の報告があった。

##### 3) 平成 25 年度事業計画（案）（総一資料 5-1）

太田理事長より、下記 12 項目について説明があり、これを承認した。

- ①第 18 回学術集会の開催（第 28 回日本老年学会における合同開催）

- ②学会誌第 18 巻 1, 2 号の発行 (電子投稿・査読システムの立ち上げ)
  - ③老年看護学に関わる研究, 教育活動の推進 (研究, 教育活動を推進するためのワークショップ等の開催/老年看護実践の質向上にかかわる研究課題を明らかにし, 厚生科研など研究助成を得て学会として研究活動を推進)
  - ④生涯学習支援事業の推進
  - ⑤老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進 (老年看護の制度・政策における課題の明確化のための検討/臨床現場等の老年看護技術に関する診療報酬評価を目指した調査事業の推進/平成 28 年度診療報酬改定に向けた, 看保連を通じた提案書提出のための準備)
  - ⑥災害支援事業の推進
  - ⑦学会組織の基盤強化・活性化に向けた活動の推進 (会員の連携を深め, 各地域での学会の活動を推進する地域ネットワークシステムを検討)
  - ⑧学術組織, 看護系諸学会との連携, 推進
  - ⑨国内外の老年学会における活動の推進
  - ⑩表彰論文の選考
  - ⑪情報発信の推進
  - ⑫その他本学会の目的とする事業
- 4) 平成 25 年度予算 (案) (総一資料 6)

水野会計担当理事より以下のとおり説明があり, これを承認した.

- ①収入の部については, 会費収入: 13,020,000 円 (正会員名 1,400 中 1,302 名), 学会誌等販売費: 100,000 円, 利子・雑収入: 800,000 円 (ワークショップ参加費, 生涯学習研修参加費, 著作権使用料等), 前年度繰越金: 12,886,715 円を含め, 合計 26,806,715 円の収入とした.
- ②支出の部については, 学会誌作成委託費: 4,300,000 円 (18 巻 1, 2 号), その他編集委員会費: 1,350,000 円 (電子投稿・査読システム構築費含む), 研究・教育活動推進委員会: 500,000 円, 国際交流委員会: 870,000 円, 生涯学習支援委員会費: 850,000 円, 学会事務委託費 (基本事務費, HP 維持・更新費): 1,650,000 円, 総務事務費: 1,850,000 円, 他会計組入支出 (特別会計): 4,000,000 円を含め, 合計 22,430,000 円を支出し, 次年度への繰越金を 4,376,715 円とした.
- ③学会積立金特別会計については, 受取利子: 2,500 円, 平成 25 年度一般会計からの繰入 (活動積立金・その他): 4,000,000 円, 前年度繰越金: 16,036,818 円を含め, 次年度への繰越金を 20,039,318 円とした.

5) 平成 25 年度事業計画基本方針 (案) (総一資料 5-2)

太田理事長より, 下記 12 項目について説明があり, これを承認した.

- ①第 19 回学術集会の開催
- ②学会誌第 19 巻 1, 2 号の発行
- ③老年看護学に関わる研究, 教育活動の推進
- ④生涯学習支援事業の推進
- ⑤老年看護の制度・政策等に関連する事業の推進
- ⑥災害支援事業の推進
- ⑦学会組織の基盤強化・活性化に向けた活動の推進
- ⑧学術組織, 看護系諸学会との連携, 推進
- ⑨国内外の老年学会における活動の推進

- ⑩表彰論文の選考
- ⑪情報発信の推進
- ⑫その他本学会の目的とする事業

#### 6) 会則改正（案）（総一資料7）

太田理事長より、会則改正案における主な変更点として、①役員の数内訳を明記した点、②役員の新選を連続2期までとした点、③各種委員会の詳細規定を削除し、委員会ごとに別途規程を設けることにした点等について説明があり、これを承認した。改正日は平成25年6月6日とした。

### 5. 学術集会について

#### 1) 第19回学術集会

百瀬第19回学術集会会長より、下記内容について説明があった。

- ・開催日：2014年6月28日（土）、29日（日）
- ・会場：愛知県産業労働センター（ウイングあいち）
- ・テーマ：高齢者が主体的に生きることを支える老年看護学の探究
- ・演題登録期間：2013年12月19日（木）～2014年1月30日（木）

#### 2) 第20回学術集会

正木第20回学術集会会長より、第29回日本老年学会総会と合同開催になる旨、および下記内容について説明があった。

- ・開催日：2015年6月12日（金）～14日（日）
- ・会場：パシフィコ横浜

### 6. 表彰

酒井研究論文表彰選考委員長より、第6回研究論文表彰の発表が行われ、下記の授賞論文1題に対し賞状および副賞（楯）が太田理事長より贈呈された。

- ・奨励賞：【研究ノート】認知症高齢者と家族介護者が関わり合う際に生じる困難に対する看護介入の開発 —介入プログラムの作成と実践—  
15巻2号, 36-43, 2011.  
高見美保, 水谷信子

### 7. 閉会の辞

湯浅理事より、閉会の辞が述べられ、閉会となった。